

# 平成 28 年度長崎県立大学COC事業評価報告書【全体評価】

## 1. 事業実施計画

### ○平成 28 年度

実施4年目であり、本学が地域の地(知)の拠点として地域の課題解決への貢献を行うとともに、学生に対しては、地域の歴史、文化、社会・経済、医療・保健・福祉等をよく知り、また、積極性、創造性、協調性、倫理性及びコミュニケーション力などの学士力を身につける能動的な学びを提供することにより地域と学びの2つを両輪として、学長を中心とした学内の教育および組織改革を達成する。

## 2. 推進本部自己評価

平成 28 年度の事業実施計画と事業の実績及び成果を総合的に鑑みて目標を達成することができたか。

評点： Ⅲ

### ○判断理由

#### 事業の実績

- ・地域の課題を学生が抽出し解決策を考える「しまなび」プログラムを、全学必修科目として経済学部、国際社会学部の学生に対して実施した。学生は事前の講義形式の授業でしまのことを学び課題を考えたいうえで実際にしまでのフィールドワークを行い、課題解決策をまとめた。フィールドワークの成果は地域住民の方と意見交換しながらまとめ、学内での発表や地域へ向けて発表し、地域の方と意見交換も実施した。このことにより地域との関係を深め今後の課題の抽出や解決方法、学生の活動への理解等についても双方の理解を進めることができた。
- ・グローバルな視野をもち、かつ地域課題に主体的に取り組み解決できるグローバル人材育成のため、学部学科再編を行った。

### ○事業の成果

- ・「しまなび」プログラム(講義科目「長崎のしまに学ぶ」全 15 回、演習科目「しまのフィールドワーク」)を実施することにより学生が地域課題を考えフィールドワーク(4泊5日)を実施し、学内外に発表することにより学生の課題探究能力や問題解決力、発信力等を涵養することができた。さらに、学生のフィールドワークの成果を地域の方々へ発表し意見交換を行うことで研究成果の地域への還元につながり、大学や学生にとっても今後の研究・発表のテーマや方向性を確

認することができた。また、学生の研究成果で実際に活用できそうな素材については、地域の方とディスカッションを行い、具体的な活用方法等について検討を行った。また、学生のアクティブラーニングやPBL形式の授業をサポートするためのeラーニングシステムを昨年度の実施結果や学生の意見等を参考に更なる構築を進めた。これにより、効率的な授業運営や学生のユーザビリティに資することができた。

・平成28年4月より以下の学部、学科に再編された。それぞれの学部・学科のカリキュラムポリシーや人材育成方針に沿って、実学(現場)を重視した実践的な教育を行っていく。

経営学部(経営学科、国際経営学科)

地域創造学部(公共政策学科、実践経済学科)

国際社会学部(国際社会学科)

情報システム学部(情報システム学科、情報セキュリティ学科)

看護栄養学部(看護学科、栄養健康学科)

### 3. 評価委員会評価

平成28年度の事業実施計画と事業の実績及び成果を総合的に鑑みて目標を達成することができているか。

評点: Ⅲ

#### ○判断理由及び意見

##### 項目別評価結果

	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
1. 教育	3	4	0	0
2. 研究	1	5	0	0
3. 社会貢献	0	6	0	0
4. 全体	0	3	0	0
合計	4	18	0	0

・実施計画の項目別の評価結果については、「Ⅳ」が4項目、残りの18項目は「Ⅲ」であった。

・特に、昨年以上に作りこまれたeラーニングシステム「manabie(マナビー)」を学生が使いこなし、学習効率が上がっていると見受けられ、一方的に情報を与えるのではなく、しらの課題を自ら考え、解決策や改善策をグループで考えていく中で、学生自身「気づき」も醸成されている。

・また、「学生の提案を実現するための、しま関係者と学生とのディスカッション実施」という実施計画に対し、一例として、五島でのフィールドワークを行った学生グループが、かんころ餅パッケージ

ジ製作から長崎市の百貨店での催事イベントでの販売を行うまでに到達したことは、想定以上の成果であり大変評価できる。

- ・しまの健康実習報告会については、健康維持や病気などの予防にも繋がり、地元関係者等からも大変評価を受けているとのことであり、評価できる。
- ・平成 28 年度の活動については、順調に実施されており、全体評価としては自己評価どおり「Ⅲ」が適当である。